

佳作

私のあこがれ

新潟県 柏崎市立柏崎小学校六年 三宅 朱音

「“気遣い”とは何か。」そう聞かれても、すぐには思いつかないだろう。「何かをやってあげる・手伝ってあげる」ことだと思っていた。しかし、あの人と話したことで、「気遣い」に対する考え方が変わった。

八月十四日、わたしは、いつものように花の水やりをしていた。この花は、わたしの通っている小学校と近くの中学校が協力して、「柏崎をより良いまちにしよう」と願いをこめて育てている花だ。すると、一人のおばあさんが、わたしに

「がんばっているねえ。」と声をかけてくれた。わたしは

「ありがとうございます。」となんとなく答えた。その時は、わたしには分からなかった。何を伝えようとしているのか、どんな「気遣い」をしてくれたのか。

すると、どうしたのだろう。おばあさんは私に

「手伝おうか。」と私の目を見て言ってくれた。その時、わたしははかしくなった。なぜなら、周囲の人に見られている気がしたからだ。気が重くなった。わたしははつきりと

「いいです。」と言った。でも、

「本当にいいの。」と心配そうに言ってくれた。少しおどろいた。

そして、なぜそんなに優しくしてくれたか考えた。あのおばあさんは少しえらい人

なんだと思う。でも、えらいだけでは優しくしてくれないと思う。あのおばあさんの「人への接し方」がすばらしかったのだと思う。

あの日以来、あのおばあさんはわたしの「あこがれの人」になった。なぜかという、あのおばあさんの人への接し方に感動したからだ。

後日、「人への接し方」について考えてみた。わたしが大切だと考えた「人への接し方」は二つ。一つ目は、「声をかける」こと。少し困っているような人に、声をかける。それは、とても勇気のある行動だとわたしは考える。実際、あの時わたしは少々困っていたのだ。だから、それを見分けられることはとてもすごいと思った。二つ目は、「はげます・応援する」こと。そうすることで、自然と笑顔になって、自分も相手も話しやすくなるからだ。この二つのこととが大切だと考えた。

「気遣い」とは「何かをやってあげる」ことなどもそうだけれど、「人と優しく接する」ことも気遣いだと思った。世界中の人たちが「気遣い」を大切にすれば、世界が笑顔でいっぱいになるだろう。未来が明るくなるだろう。あのおばあさんは、そのことをわたしに伝えたのかもしれない。

そんな、人々に感動をあたえる「人への接し方」は、いつまでもわたしのあこがれになるだろう。